Harvest Bible Forum

第一回

ハーベスト聖書フォーラムキャンプ

メッセージアウトライン



We don't go to church.

We are the church!

/[-^*XF*·*94L*·****_X*

メッセージ1

「時代を読み、理念を確立する」

中川健一

イントロダクション

1. 初穂という言葉について

- (1) レビ 23:10 初穂の祭り(過越の祭りの次の安息日の翌日。メシアの復活の型)
- (2) 創4:4 アベルの捧げもの(羊の初子の中の最良のもの)
- (3) | コリ 15:20 「眠った者の初穂」、| コリ 15:23 「まず初穂であるキリスト」
- (4) ロマ8:23 「御霊の初穂」
- (5) | コリ 16:15 「ステパナの家族は、アカヤの初穂」
- (6) ヤコ1:18 「被造物の初穂」
- (7) 適用

2. アウトライン

- (1) 時代性
- (2) 聖書フォーラム運動の理念
- (3) 霊的革命

このメッセージは、時代を読み、行動を起こすためのものである。

1. 時代性

1. 閉そく感

- (1) ビジネスの国際化と「日本人の会社」という組織の硬直化(日経 10/07/25)
- (2) 政治の世界における混乱と白け

2. 明治維新と時代の要請

- (1) 維新の三傑 薩摩の西郷隆盛、大久保利通、長州の桂小五郎 (木戸孝允)
- (2) これ以外の2人の人物 ①勝海舟(幕臣)と②坂本竜馬(土佐を脱藩)
- (3) 今個人的に興味を持っているのは、適塾を主宰した緒方洪庵。

(4) 時代の要請:私益を越えて、国益と世界への貢献を考える。

3. 日本人の精神性

- (1) 神国思想
- (2) 尊王攘夷というスローガン
- (3) 孝明天皇の狭小な世界観(徳川幕府によって鎖国が始まったことを知らない)
- (4) 明治維新は、宗教的神国思想を排除したところに成立した。
- (5) 昭和の戦争は、その神国思想の復活である。
- (6) 戦後、物質主義に走ったが、日本人の精神性がどの程度変化したか疑問である。

4. 海外のキリスト教界の動き

- (1) 西洋中心のキリスト教から、アジア中心のキリスト教へ。
- (2) その先に、イスラム圏、そして、イスラエルがある。
- (3) 成熟したキリスト教圏での新しい現象
 - ①聖書を学ばない教会、神学的にずれた教会
 - ②生きた信仰を求める人たちが、自ら集会を始めている。
- (4)『レボリューション』(ジョージ・バーナ)2005 年英語版 2007 年日本語版
 - ①アメリカのキリスト教界にとっては 100 年ぶりの信仰の見直し。
 - ②2025年には、地域教会30~35%、それ以外30~35%。
- (5) 『An Army of Ordinary People』(Felicity Dale)2005 年英語版

Ⅱ. 聖書フォーラム運動の理念(「資料2」参照)

Ⅲ. 霊的革命

自立への道 - 日本の教会に一般的に見られる病理現象 (FATIM) からの脱却

- 1. 形式主義(FORMALISM)から自由(FREEDOM)へ
- 2. 権威主義(AUTHORITARIANISM)から自治(AUTONOMY)へ
 - ①自給伝道
 - ②自主運営
- 3. 伝統主義(TRADITIONALISM)から変革(TRANSFORMATION)へ

- ①ユダヤ的聖書解釈
- ②神の国の視点
- 4. 内向き志向(INWARD-LOOKING)から外向き志向(OUTWARD-LOOKING)
 - ①キリスト教信仰を世界観としてとらえる。
 - ②キリスト教信仰を歴史観としてとらえる。
- 5. 会員志向 (MEMBERSHIP ORIENTED) から流動志向 (MIGRATION ORIENTED) へ
 - ①歴史の流れと社会の現状を読む。
 - ②自らの動機の再確認

メッセージ2

「聖書フォーラム運動の特徴」

中川健一

イントロダクション

1. 聖書フォーラムに集う人々

- (1) 求道者
- (2) 自由主義神学に毒された教会に通っている人たち
- (3) カルト的教会で傷ついた人たち
- (4) 福音的教会に通っているが、ユダヤ的視点が欠落した人たち

2. アウトライン

- (1) 聖書観
- (2) ユダヤ的解釈
- (3) イエス・キリスト中心
- (4) ディスペンセーショナリズム

このメッセージは、理念を実行に移すためのものである。

1. 聖書観

1. 合理主義

- (1) 無神論、不可知論、理神論
- (2) 自由主義神学

2. 神秘主義

(1) 経験に最高の価値を置く。

3. ローマカトリック

- (1) 聖書はあいまいに書かれている。
- (2) 最終的な権威である教会が、聖書の意味を明らかにする。

(3) 教会の伝統に重きを置く。

4. 新正統主義

- (1) 実存主義哲学の影響を受けている。
- (2) 聖書の中から「神のことば」を見つけ出すことが、人間の役割である。

5. カルト

- (1) 聖書プラス何か別の聖典が重要とされる。
- (2) 聖書の霊感を認めると同時に、別の聖典の霊感も認める。

6. 正統主義(聖書的立場)

- (1) 聖書は、誤りなき神のことばである。
- (2) 聖書の原典は、霊感を受けて書かれており、なんの誤りも含まない。
- (3) 聖書は、信仰と生活に関する唯一で最終的な権威である。

Ⅱ. ユダヤ的解釈

1. 字義通りの解釈(Literal interpretation)

- (1) 機械的な解釈ではなく、最も自然で、単純な解釈である。
- (2) 比ゆ的表現を否定するわけではない。
- (3) 字義的解釈は、「意味は一つである」という原則にこだわる。

2. 比ゆ的解釈 (Allegorical hermeneutics)

- (1) 言葉の意味を、象徴的、比ゆ的に解釈する。
- (2) その結果、著者の意図とは異なった結論を導き出すことになる。
- (3) アレキサンドリヤの教父であったオリゲネス (185年頃~254年頃) が源流。

3. 半分字義通り、半分比ゆ的解釈(Semi-allegorical or semi-literal interpretation)

- (1) 折衷的解釈法である。
- (2) 福音派に多く見られる。
 - ①預言の箇所は、比ゆ的解釈をする。
 - ②それ以外の箇所は、字義通りの解釈をする。

4. 神学的解釈(Theological interpretation)

- (1) 神学体系が先にあって、それに合致する解釈を採用する。
- (2) 上記3の解釈と、共通点がある。

Ⅲ. イエス・キリスト中心

- 1. メシア論の重要性
 - (1) メシア論はキリスト教信仰の土台である。
 - (2) メシア論が間違っていると、救済論が間違ってくる。
- 2. メシア論の要諦
 - (1) メシア(主イエス・キリスト)は、完全に人であり、完全に神である。
 - (2) イエスは他の人間と同じように女から誕生し、生き、苦しみ、死んだ。
 - ① ∃ / \ 1:14
 - ② | テモ3:16
 - ③ヘブ2:14~17
 - (3) イエスは他の人間とは異なっていた。
 - ①永遠の昔から存在していた。
 - ②その生涯において一度も罪を犯さなかった。
 - ③その死は人類の罪を贖うものであった。
 - ④復活と昇天によって、神の力を示された。
 - (4) 福音の3要素
 - ①キリストは十字架上で死なれた。
 - ②墓に葬られた。
 - ③3日目に甦られた。

Ⅳ. ディスペンセーショナリズム

- 1. ディスペンセーションとは、神が人間を扱う方法の一区分のことである。
- 2. 7つのディスペンセーション
 - (1) 無垢の時代
 - (2) 良心の時代
 - (3) 人間による統治の時代
 - (4) 約束の時代
 - (5) 律法の時代
 - (6) 恵みの時代
 - (7) 御国の時代

- 3. 今は、第6番目のディスペンセーション、「恵みの時代」である。
 - (1) 第一義的適用
 - (2) 第二義的適用
- 4. 聖書的にイスラエルを理解しようとする体系

メッセージ3

「教会とは何か」

中川健一

イントロダクション

1. 時代の要請

- (1) 国益と世界への貢献を考える。
- (2) 教会への要請
 - ①ギリシア語で ekklesia という。「この世から呼び出された会衆」
 - ②建物や教派、教団のことではない。
 - ③地域教会と普遍的教会がある。

2. メッセージのアウトライン

- (1) いつ誕生したのか。
- (2) その構成員とは誰か。
- (3) 土台は何か。
- (4) 存在目的は何か。

1. いつ誕生したのか。

1. 教会設立の条件

(1) マタ 16:18

「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません」

- ①「わたしの教会」とは、普遍的教会のことである。
- ②イエスがこのことばを語られた時点では、教会の誕生は将来のことである。
- (2) イエスの復活が条件である。
 - ①エペ1:19~20
- (3) イエスの昇天が条件である。
 - ①エペ4:7~12

- 2. 教会は、ペンテコステの日に誕生した。
 - (1) 使2章
 - (2) | コリ12:13

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです」

①信者は信じた時に、聖霊のバプテスマによって教会の一員となる。

3. 永遠の昔から計画されていた。

- (1) しかし、教会を挿入句のように考えてはならない。
- (2) 永遠の昔から神は教会を計画しておられた。
 - ①エペ3:9

「また、万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現が何であるかを、 明らかにするためです」

②□□1:24~26

「ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです」

Ⅱ. その構成員とは誰か。

- 1. 普遍的教会には、ペンテコステから携挙までに救われたすべての信者が含まれる。
 - (1) 地域教会には、信者と未信者が含まれる。
- 2. 普遍的教会は、イエスをメシアと信じるユダヤ人と異邦人から成っている。
 - (1) エペ2:11~16

「ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。 すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々 と呼ばれる者であって、そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエル の国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもな く、神もない人たちでした。しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今では キリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたの です。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ち こわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました」

- (2) ユダヤ人と異邦人から「新しいひとりの人」が造られた。
 - ①これが普遍的教会である。

Ⅲ. 土台は何か。

1. エペ2:19~22

「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです」

- 2. 教会は建設途上にあり、まだ完成していない。
 - (1) イエスが「礎石」(隅のかしら石)。
 - (2) 使徒と預言者が土台
 - (3) 信者ひとりひとりが、建物を造る石である(1ペテ2:5)。
- 3. イエスは「礎石」であると同時に、「土台」である。
 - (1) 礎石から、直角に2つの線が延びる。その線上に土台が据えられる。
 - (2) その2つの線の一方に沿って据えられる土台が使徒たちである。
 - (3) もう一方の線に沿って据えられる土台が新約時代の預言者たちである。
 - (4) 礎石と土台が据えられた後に、石が積み上げられていく。
 - (5) この建物(普遍的教会)が完成した時に、携挙が起こる。
- 4. 信者は相互に依存している。
 - (1) 教会に与えられている霊的賜物は、相互依存という真理と関係している。
- 5. 基礎が確かだと、建物は堅固なものになる。
- 6. その基礎の上にどのような建物を建てたかで、信者の受ける報酬が決まる。
 - (1) $| \exists \forall 3 : 10 \sim 15$

「もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです」(12~13節)

VI. 普遍的教会の目的

1. 御名をもって呼ばれる民を召すため

(1) 使 15:13~18

「神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民を お召しになったかは、シメオンが説明したとおりです」(14節)

- (2) エルサレム会議で、異邦人はユダヤ教に改宗せずとも救われるという結論が出た。
- (3) 教会には、より普遍的な目的がある。
 - ①異邦人の中から御名をもって呼ばれる民を召す。
 - ②□マ11:25~26

*異邦人の完成のなる時まで、異邦人伝道は続く。

2. ユダヤ人にねたみを起こさせるため

(1) ロマ11:11~14

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対に そんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだ のです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです」(11節)

- (2)「ねたみを起こさせる」
 - ①ギリシア語で、パラ ゼイラオウ
 - ②パラとは、傍に来る、寄り添う、などの意味(パラレル、パラリンピック)。
 - ③ゼイラオウとは、燃やす、火をつける、嫉妬で顔を赤くさせる、などの意味。
- (3) 異邦人の使命は、ユダヤ人に嫉妬心を与えること。

3. 神の臨在の場となるため

(1) $\pm \% 2 : 20 \sim 22$

「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエス ご自身がその礎石です。この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主 にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたもともに建て られ、御霊によって神の御住まいとなるのです」

(2) 各信者の中にだけでなく、有機体としての教会の中にも神の臨在が宿る。

4. 神に永遠の栄光をもたらすため

(1) エペ3:20~21

「どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン」

(2) 教会に対する神の計画がすべて成就した時には、上の聖句が成就する。

結論

- 1. 各聖書フォーラムは、地域教会の卵である。
 - (1) その数が増え、組織化することによって、名実ともに地域教会となる。
- 2. 各聖書フォーラムは、普遍的教会の完成を目指して奉仕する。
- 3. 聖書フォーラム運動への反応(『レボリューション』126ページ参照)
 - (1) 無関心、認識がない人々
 - (2) 強硬に反対する人々
 - (3) 共存型の人々
 - (4) 現状を観察し、後から参加する人々
 - (5) 革命家その人

資料1

「カルト教会について」

沖縄グレイスチャーチ 牧師・下地博之

1. カルト教会の特徴とその手法

- (1) マインドコントロール ピリピ 1:9~10 ― 真にすぐれたものを見分ける ―
 - ①預言、お告げ。
 - ②同じ内容の繰り返しのメッセージ。
 - ③牧師と同じ祈り。復唱の祈りを、一時間から二時間祈る。
 - ④情報コントロール。指定図書、テープ、映画以外は禁止。
 - ⑤他教会の特別伝道集会、セミナーへの参加禁止。
- (2) 独裁的であり強権主義 I ペテロ 5:3 ― 割り当てられている人々を支配するのでは なく ―
 - ①牧師は神の代理。牧師に対して絶対服従(盲従)。
 - ②全ての祝福は、牧師、教会を通して信徒に与えられる。
 - ③栄光は必ず牧師を通して、主に返せ(実際は、「帰せ」)。
 - ④恐怖による牧会
- (3) エリート意識、排他的集団 ヤコブ 4:10 ― 主の御前でへりくだりなさい ―
 - ①我らは、天の神の前に、他教会のためにとりなす祭司的教会
 - ②他教会は、クリスチャンごっこ。
- (4) 聖書を教えない。 | テモテ 4:13 ― 聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい ―
 - ①主題説教(証し的内容の繰り返し)
 - ②すべての不幸、病の背後に悪霊がいる。- 特異な聖書解釈 -
 - ③祈り至上主義。・・・祈れば何でも解決できる。
 - ④二元論・・・神とサタン、教会とこの世(家庭・社会)、霊と肉体(物質的なもの)
- (5) 隠蔽体質 ルカ 12:2 ― 隠されているもので、知られずに済むものはありません ―
 - ①主任牧師、教会組織にとって不都合なことは、徹底して隠す。
 - ②週報等による情報公開がなく、不透明なところが多い。

- (6) 勝利主義 | ヨハネ5:3~5
 - ①癒されたら信仰がある。
 - ②経済的に恵まれたら信仰がある。
 - ③悪霊を追い出すことができれば信仰がある。
- (7) 教会中心主義 マタイ 16:24 ― 教会ではなく、キリスト ―
 - ①集会数の異常な多さと強制参加。
 - ②教会奉仕の強い勧め。
 - ③キリストではなく、教会中心の生活。寝泊まりする信者。
- (8) たくみな金銭要求 使徒 20:33
 - ①感謝の印しとして、暗に金銭を要求。
 - ②献金者とその金額を壇上から語り、献金せねばとの強迫観念を造る。
 - ③祝福の祈りと見返りの金銭要求。

Ⅱ. カルト教会における被害者の実態

- (1) 神、教会、牧師に対する不信。(2) 家族との不和、断絶。(3) 社会性の喪失。
- (4) 自殺。(5) 医療拒否による病状の悪化。(6) 未婚者続出。(7) 経済的損失。
- (8) 思考力、判断力の低下。

Ⅲ.カルト教会からの救い

カルト教会の中では、正しい教会観、社会観、世界観を持つことは、非常に困難なことです。何故なら、指導者の間違った考えが思考の出発点にあり、それを基準に善悪を判断していくからです。まず、思考の出発点(論理の前提)が間違っていることを知らなければなりません。その為には、外部から聖書の正しい知識、理解力、判断力をもった教師を招き教えてもらわなければなりません。

私たちがカルト教会から救出されたステップは次の通りです。

- ①教会内でカルト的手法に対する不満が爆発し、それを沈静化するために講師として中川先生が 招かれた。
- ②中川先生は、教会内にある問題点を列挙させ、まず牧師、献身者が問題に対する共通認識を持つように導く。

- ③浮き彫りにされた問題に対する解決策を提示、検討し、再建を目指す。
- ④並行して、問題点の一つである聖書の無理解等を克服し、霊的識別力を養うために「成長セミナー」を開催。
- ⑤主任牧師が、再建策を拒否すると同時に、中川先生の働きをも拒否した為、再建策は頓挫し、 現状維持ということになった。
- ⑥結果として、聖書に照らし合わせて異常であると理解した兄姉は、その教会から脱出。

私は、脱出後すぐに中川先生の協力、アドバイスを得て、沖縄グレイスチャーチを設立しました。ところが、ある大きな問題に気づかされました。それは、沖縄グレイスチャーチに集うほとんどの兄姉が、以前の教会ですり込まれた思考パターンを持っていたことでした。以前の教会のカルト的手法に反発しつつも、似たような方法で教会運営をしようとしたことでした。それに対して、私は神学校へ行くことを決意し、兄姉にも聖書学校で聖書を学ぶことを勧めました。その決断はよい結果をもたらし、沖縄グレイスチャーチは、聖書を学ぶ教会へと変わっていきました。兄姉たちは、個人的にも、クレイを用いてデボーションをしています。また神学校、聖書学校で学ぶことにより、他教会との交流も深まり、風通しのよい教会になっています。

現在は、牧師だけが聖書を教えるのではなく、兄姉がそれぞれの賜物を生かして、福音を伝えることを目指しています。その一環として「成長セミナー」を開催し、まず神のマスタープランを知り、今の時代に如何に生きるべきかをしっかりと悟り、それぞれが伝道者となることを目指しています。

資料 2

「ハーベスト・タイム・ミニストリーズ:3つの活動」

Celebration

- 1) 定例会
- 2) 月例会
- 3) コンサート
- 1) 各種セミナー
- 神の栄光
- 2) 成長セミナー
- 3)ハーベスト聖書塾
- 4) Clay (クレイ)
- 5) 聖地旅行

- 1) 国内伝道
- 2)海外伝道

Discipleship Evangelism



無断複製・転載を禁じます

名前:______